水性プライマー散布機

ＡＰ－２Ｗ

取扱説明書

アトミクス株式会社

AP2W1804048-1

目　次

１．安全のために　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

　１－１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

　１－２．注意喚起の表示説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

　１－３．注意喚起マーク　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

　１－４．取扱上の注意（必ずお守り下さい）　・・・・・・・・・・・・・・・・　５

　１－５．警告ラベル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

２．仕　様　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

３．各部の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

４．取扱い方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

　４－１．操作の流れ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

　４－２．点検と準備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

　４－３．調　整　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

　４－４．散　布　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

　４－５．作業中断時　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

　４－６．終了時　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

　４－７．保　管　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

５．トラブルシューティング　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

１．安全のために

１－１．はじめに

製品の性能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくために、ご使用前に必ずこの「取扱説明書」を熟読し、取り扱いの知識、安全の情報、そして注意事項等を十分にご理解いただき正しくご使用下さい。

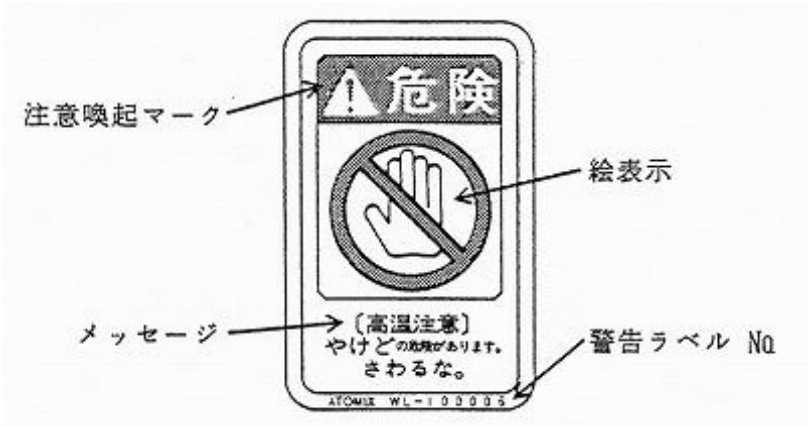
⚠ 警告

- 本書はいつでも読めるよう、使用される方の手元に保管してください。
- 本書を紛失または損傷した場合は、すみやかに当社に発注してください。
- 本機を譲渡されるときは、次の所有者に本書を必ず添付して譲渡してください。
- 製品の改良により、本書の内容の細部において本機と一致しない場合があります。ご不明な点やお気づきの点がありましたら、担当営業か最寄りの営業所にお問い合わせください。

１－２．注意喚起の表示説明

本書での「取扱上の注意」及び製品に貼り付けた「警告ラベル」に用いられている注意喚起のための各種の表示について説明します。
これらの表示は、原則として「注意喚起マーク」「絵表示」「メッセージ」からなり、安全にご使用いただくための注意を表したものです。但し、「警告ラベル」には、貼り付けスペースが限られている場合等により、絵表示を省略したものもあります。

※同一内容の注意項目に関して、本書での「取扱上の注意」によるものが装置に貼られた「警告ラベル」より詳しく述べられているので、必ず本書にて、その内容を再確認して下さい。



１－３．注意喚起マーク

注意喚起マークは安全のために、注意を喚起するための項目見出しです。
また、その項目は危険の度合いにより、「危険」「警告」「注意」の３つに区分されて表示しています。

［注意喚起マークの区分と危険度合い］



この表示を守らないと、使用者が死亡又は重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定されることを示します。



この指示を守らないと、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。



この指示を守らないと、使用者が軽傷を追う可能性又は、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

１－４．取扱上の注意（必ずお守り下さい）

この機械で用いる路面標示用プライマーには、溶剤（シンナー）が含まれるものがあるため、下記の点に注意して下さい。又、その他は用いる路面標示用プライマーの注意書きに従って取り扱って下さい。

⚠ 危険



・火気厳禁
危険物をスプレーするときは、火気を近づけたり、火気の近くで行うと、引火して火災の危険があります。

・静電気注意（ハンドマーカー使用時）
スプレーの際に、高圧の静電気を発生します。

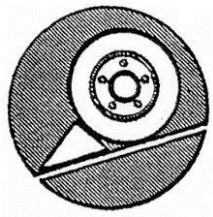
⚠ 警告



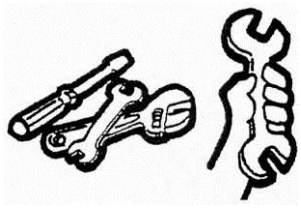
・工事区域外での使用の禁止
本製品を使用するときは、災害防止のため一般車両及び通行人の通行を規制した工事区域内でご使用下さい。



・ペイントガンを人に向けるな
（ペイント用ハンドマーカーの場合）
人に向けてスプレーすると、人体に障害を与える危険があります。絶対に人に向けてペイントを吐出させないで下さい。



・坂道に止めるときは輪止めをすること
不意に動き出して、災害の危険があります。
走行用動力源を持つ施工機（自走式）は、平坦地でも危険性があるので、止めておく時は、必ず輪止めをすること。



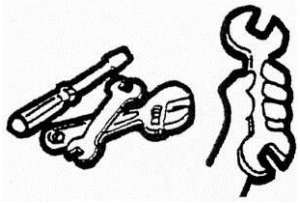
・装置の始業点検／修理
作業前に、装置の点検を行って下さい。老朽、損傷部分があれば修理を行って下さい。
そのままにしておくと、思わぬ事故のもとになります。

⚠ 注意



・服装の注意

装置を操作するときは、必ず作業にあった安全具を着用し、体にあった作業服を着用して下さい。
やけど、けがをする危険性があります。



・装置の点検整備

装置の定期点検は、必ず実施して下さい。

☆　装置を取扱う上での主な注意事項は以上ですが、作業中はこれら以外にも十分に安全に留意して、装置をお使い下さい。

１－５．警告ラベル

本装置には、下記の警告ラベルが貼り付けられています。
これらの警告ラベルは、いつもきれいにしておいて下さい。破損したり、はがれたりした場合は、再度貼り付けて下さい。







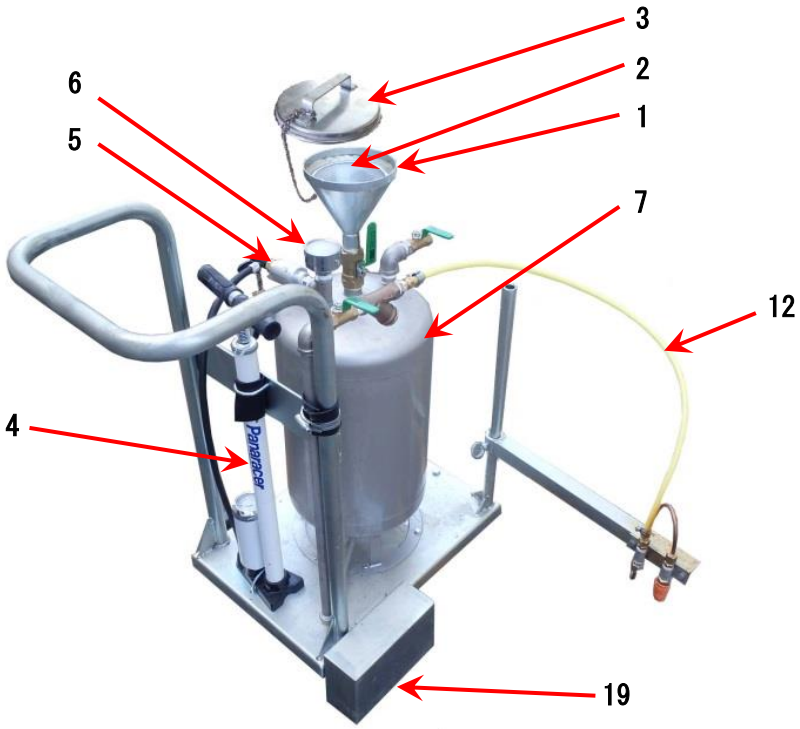
２．仕　様

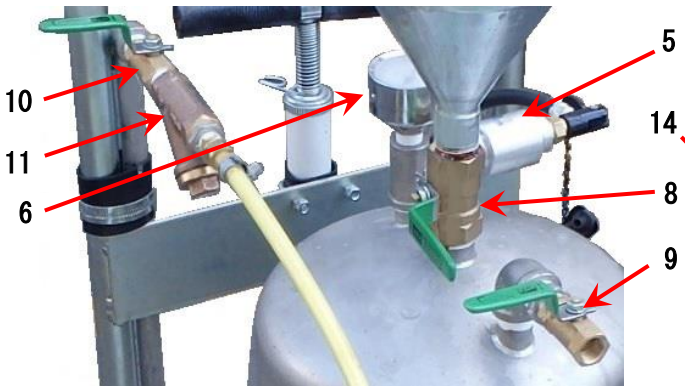
型　式	ＡＰ－２Ｗ
全長×全幅×全高(mm)	７００Ｘ５００Ｘ９００
乾燥質量(kg)	２５
タンク容量（ℓ）	２０
加圧方式	手押し空気入れ
散布圧力（MPa）	０．２～０．３
施工速度（15cm 幅）	２～５km/h
散布幅（cm）	１５～５０

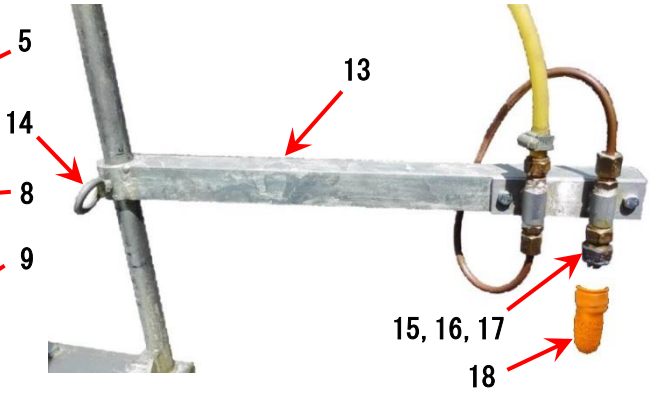
注意：本製品は水性／溶剤系の両方のプライマーが散布可能です。しかし、水性プライマーに溶剤または溶剤系プライマーが混ざると、ゲル化して配管詰まりの原因となります。水性／溶剤系プライマーの切り替えの際は本取扱説明書に従って十分洗浄を行って下さい。

３．各部の名称

１．ジョウゴ
２．こし網
３．フタ
４．空気入れ
５．逆止弁
６．圧力計
７．タンク
８．材料用コック
９．エア抜き用コック
10．散布用コック
11．Ｙ型ストレーナ
12．ホース
13．アーム
14．アイボルト
15．チップ
16．パッキン
17．袋ナット
18．ゴムキャップ
19．タイヤカバー







４．取扱い方法

４－１．操作の流れ

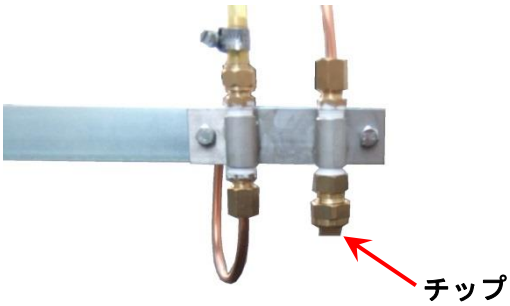
散布用コックが閉じていることを確認して下さい
↓
エア抜き用コックを開けて下さい
↓
材料用コックを開けて下さい
↓
プライマーをジョウゴよりタンクに入れて下さい
↓
エア抜き用コックと材料用コックを閉じて下さい
↓
空気入れで 0.3MPa まで圧力を上げて下さい
注意：散布機本体にプライマーを入れた状態で、散布機本体を倒さないで下さい
プライマーが逆止弁の中に入り、固まって故障の原因となります
↓
アームを上下させ目的の散布幅に合わせ、アイボルトを締めて下さい
↓
散布用コックを開いて散布を開始し、止めるときは閉じて下さい
↓
散布中に散布幅が狭くなったときは一旦止めて、空気入れで 0.3MPa まで圧力を上げて下さい
↓
施工終了後、エア抜き用コックを開けてタンク内の空気を抜き 0MPa にして下さい
↓
全てのコックを閉めて下さい
↓
チップを付けた状態でゴムキャップに水を入れ、チップ先を密閉状態にして下さい
※プライマーが溶剤系の場合、キャップは不要です
↓
操作終了

４－２．点検と準備

（１）使用前の点検

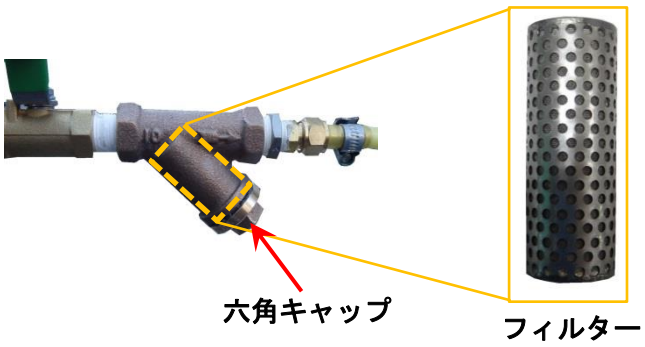
①チップ

・ゴムキャップを外し、チップに詰まりや付着物があれば毛ブラシで除去して下さい。



②フィルター

・前回の施工終了後に清掃していない場合、フィルターを点検、清掃します。Y 型ストレーナーの六角キャップをスパナで回して取り外し、フィルターを取り出して清掃して下さい。清掃が終了したら、フィルターを取付け、キャップを閉めます。



③コック

・エア抜き用コックを開いて、圧力計が 0MPa になっている事を確認して下さい。

注意：圧力がある状態で材料コックを開けると、顔などに材料が掛かり危険です。

（２）水性／溶剤系の切り替え

・前回使用したプライマーと水性／溶剤系が異なる場合は以下の手順で洗浄して下さい。

注意：ご使用になるプライマーの材料をよく確認して下さい。水性のプライマーと、シンナーや溶剤系プライマーが混ざるとゲル化を起こし機械の破損に繋がります。

水性から溶剤系への切り替え

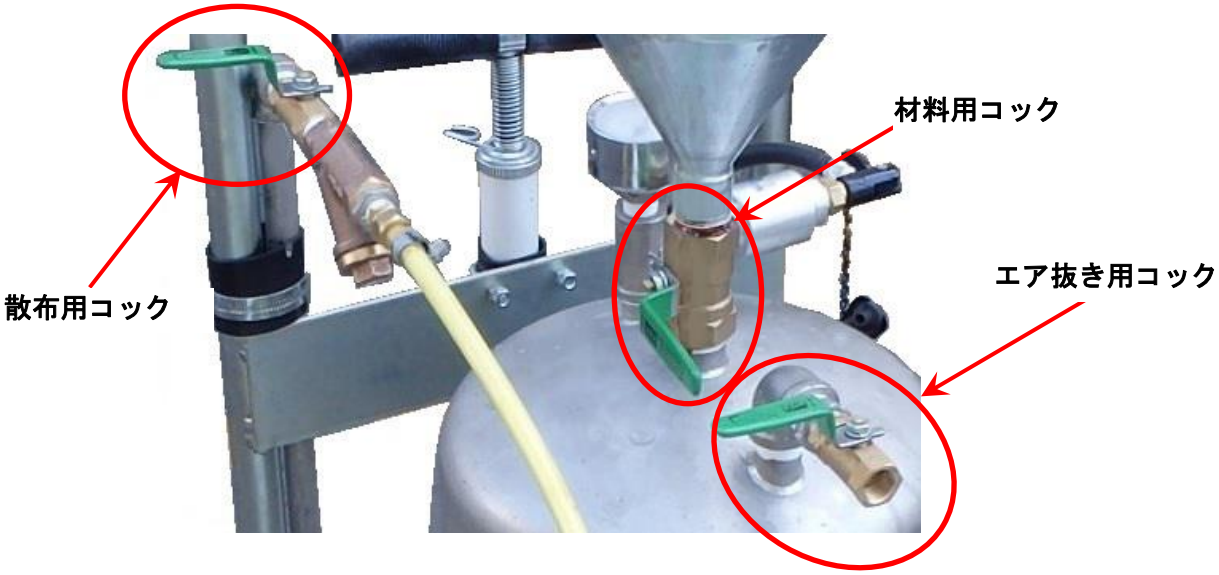
① 袋ナット、チップ、チップパッキンを取り外して下さい。
② タンクにプライマーが残っている場合は全て出切るまで散布して下さい。
③ タンク内に水を３Ｌ程度入れ、タンク内の圧力を 0.05MPa 程度に上げて下さい。
④ 散布用コックを開き、タンク内から水が全て出切るまで散布して下さい。
⑤ ③～④の手順をもう一度行って下さい。
⑥ 水のかわりに弊社製 No.4 シンナーを入れて③～⑤の手順を行って下さい。

溶剤系から水性への切り替え

① 袋ナット、チップ、チップパッキンを取り外して下さい。
② タンクにプライマーが残っている場合は全て出切るまで散布して下さい。
③ タンク内に弊社製 No.4 シンナーを３Ｌ程度入れ、タンク内の圧力を 0.05MPa 程度に上げて下さい。
④ 散布用コックを開き、タンク内からシンナーが全て出切るまで散布して下さい。
⑤ ③～④の手順をもう一度行って下さい。
⑥ シンナーのかわりに水を入れて③～⑤の手順を行って下さい。

（３）材料の準備

・エア抜き用コックと材料用コックを開け、散布用コックを閉じてジョウゴより材料を入れて下さい。（タンク内にプライマーは 20L 入ります）



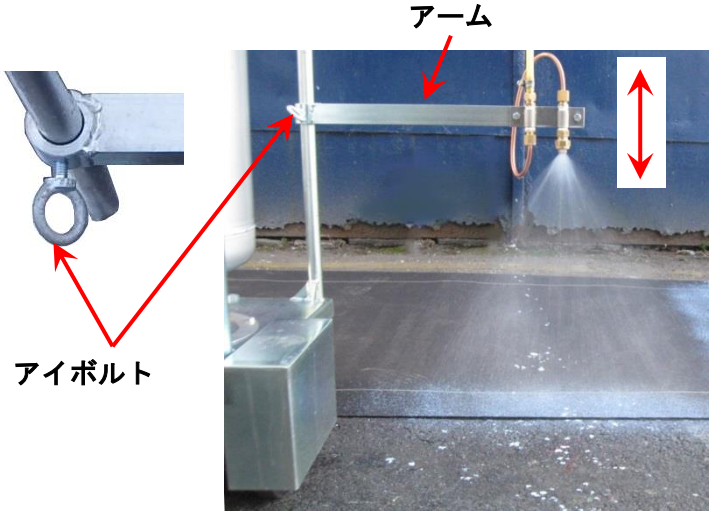
４－３．調整

（１）散布量

散布量はタンク内圧力と施工速度によって調整して下さい。

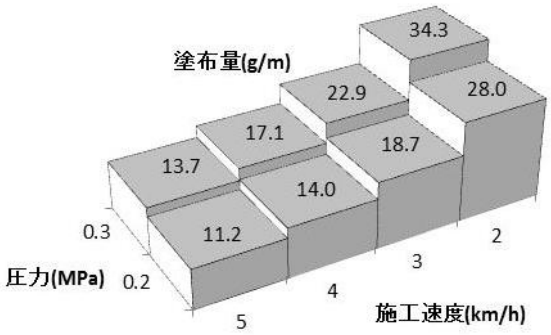
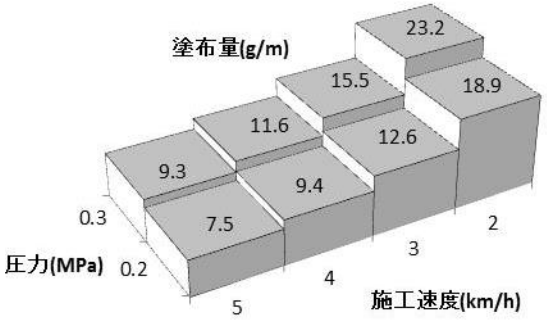
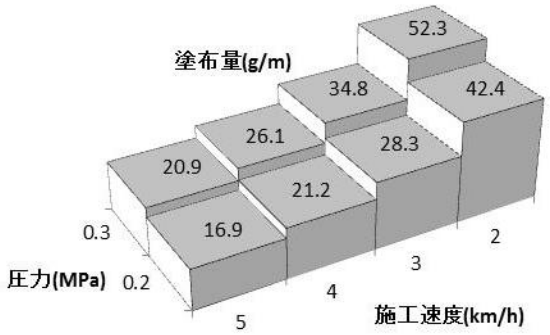
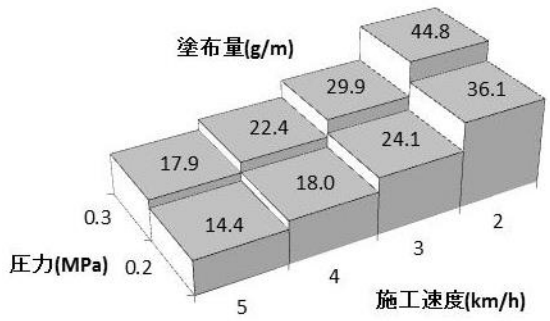
（２）散布幅

散布幅はアイボルトを緩めてアームを上下して調整して下さい。



（３）チップの交換による方法

（１）（２）の方法で、調整しきれない場合は、用途にあったチップへの交換をお薦めします。
下の図を参考にチップを選択して下さい。

チップ No. 8003　（標準チップ） スプレー幅 15cm	チップ No. 8002　（オプション） スプレー幅 15cm
	
広角チップ No. 11005　（オプション） スプレー幅 45cm	広角チップ No. 11004　（オプション） スプレー幅 45cm
	

４－４．散　布

（１） 材料用コック、エア抜き用コック、散布用コックを全て閉じてから、空気入れでタンクの圧力を 0.3MPa まで上げて下さい。
注意：散布機本体にプライマーを入れた状態で、散布機本体を倒さないで下さい。
プライマーが逆止弁の中に入り、固まって故障の原因となります。

（２）散布用コックを開いて散布を開始し、止めるときは閉じて下さい。

（３）散布中に散布幅が狭くなったときは一旦散布を止めて、空気入れで 0.3MPa まで圧力を上げて下さい。

４－５．作業中断時

作業を中断するとき（1 時間程度まで）は必ず下記手順を実施して下さい。
（１）付属のゴムキャップをチップ先に取付けて下さい。

（２）施工再開時にゴムキャップを取り、毛ブラシでチップ先の付着物を除去して下さい。
注意：キャップを取付けないとチップ先端の材料が固まり散布できなくなります。

４－６．終了時

（１）エア抜き用コックを開け、タンク内の空気を抜き 0MPa にして下さい。

（２）材料用コック、エア抜き用コック、散布用コックを全て閉めて下さい。
注意：コックが開いた状態で保管しますとタンク内に残っている材料が固まり配管内の詰まりの原因となります。

（３） 水性プライマーを使用した場合、チップを付けた状態でゴムキャップに水を入れ、チップ先を密閉状態にして下さい。
溶剤系のプライマーを使用した場合はゴムキャップをする必要はありません。

４－７．保　管

（１）タンク内に材料を入れた状態で全てのコックを閉め、チップを付けた状態でゴムキャップに水を入れ、チップ先を密閉状態にして下さい。
注意：1 週間以上使用しない場合はタンクと配管内を下記の様に洗浄してから保管して下さい。
溶剤系プライマーを使用した場合：No.4 シンナーで２回
水性プライマーを使用した場合：水で２回、No.4 シンナーで２回

５．トラブルシューティング

現象	原因	対策
圧力が上昇せず、スプレーパターンに異常が出る	空気入れの不具合	空気入れの修理、交換
	逆止弁がプライマーの固着により作動不良	下記の手順で分解洗浄
圧力は上昇するが、スプレーパターンに異常が出る	チップまたはストレーナーに異物が詰まっている	チップまたはストレーナーを取り外し、異物を取り除いて洗浄する

逆止弁洗浄手順

（１）空気入れのロックレバーを引き起こし、逆止弁から取り外して下さい。
（２）逆止弁の六角部をスパナで回して本体から取り外して下さい。
（３）⑥部品（止め輪）をドライバーまたはスナップリングプライヤーで外して下さい。
　　注意：止め輪を外す際、飛びやすいので注意して下さい。
（４）⑤部品を真っ直ぐ引き抜いて下さい。
（５）①～④部品を取り外して下さい。
（６）④部品（ゴムパッキン）以外の部品をシンナーで洗浄して下さい。
　　注意：ゴムパッキンはシンナーで洗浄すると膨潤して使えなくなりますので注意して下さい。
（７）分解と逆の手順で逆止弁を組み立てて下さい。
（８）ねじ部のシールテープを除去し、新しいシールテープを巻いて逆止弁を取り付けて下さい。
　　注意：逆止弁は胴体部分にある矢印が本体接続側を向くように取り付けて下さい。

